

日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第45号 2002年9月1日

関西方面と土佐のつながりを求めて

土佐史研究家 広谷 喜十郎

このところ、土佐の物産流通史のまともを志向して若干の仕事をしてきたので、関西旅行の機会に、「物作りのルーツ」を求めることが多くなった。

「北川村林業史」をまとめたことがきっかけで、緑の神を祀る和歌山市にある伊太祁曾神社を訪ねた。日本の林業史の源流を考える場合に、欠かすことのできない神社だと考えたから。その折、近くの根来寺へも行き、根来塗の世界にも触れてみた。この塗は、朱の色が特色だから、奈良から紀州に数多くある丹生神社との関連を考えてみた。まず、高野山の中腹にある丹生都比売神社。ここは、弘法大師と強い関係があり、高野山の「金剛峯寺根本縁起（国の重文）」によると、「大師が丹生都比売明神から広大な寺域を譲られ、高野山を開創する」とある。なお、この文書は、高知県立美術館での「国宝弘法大師空海展」でも展示された。

更に、奈良県にある代表的ないくつかの丹生神社を訪ね、朱砂（水銀）の発掘集団の存在を確認した。弘法大師が、これらの技術者集団を引き連れ、全国各地の水銀を発掘している。土佐でも丹生郷とか、丹生神社があるから、その存在が理解できる。

本年一月、大阪市立美術館で「聖徳太子展」を見学した。「玉虫厨子」をはじめ

め、国宝や重文の仏像や絵画が多数展示されており、圧倒された。その中に「四国で現在確認できる最古の彫像の聖徳太子像で、十四世紀後半の作と考えられる」長岡郡大豊町定福寺蔵の太子童形立像もあった。これは、太子信仰の流れを理解する上で注目されるとの位置付けがされていた。中村元氏は「中世以降、聖徳太子が木工・職人の信仰対象とされ、技術の神、芸の祖という位置に置かれている」と指摘されている。職人集団が「講」を組織して信仰していたと思われる。県内では、いまのところ高知市五台山など数カ所に太子が本尊として祀られている。「太子堂」が確認されている。大豊町方

面は、木地師が出入りした里として知られている。以前から興味を持って取材しており、その結びつきを考えてみたい。三月、滋賀県永源寺町を訪ねた。三重県境の木地師発祥の地である。平地は、すっかり春めいていたが、ここにはかなりの積雪が残っていた。白洲正子氏の言う「隠れ里の世界」を満喫した。木地師の始祖である「惟喬親王」の御陵や高松御所、親王を祀る太皇器地祖神社などに足を運んだ。それに、筒井八幡神社の境内にある「木地師資料館」の小椋正美氏から、貴重な話を聞かせて頂いた。ここには、江戸時代初期から全国に移住していった木地師約六万人分の記録「氏子賑帳」八十七冊が保存されていた。この資料によると、高知県にも数多くの木地師がやってきている。「永源寺町史（木地師編）」にも収録されているから、購入してきた。

今整理しているところである。



滋賀県永源寺町

企画展

「歴史と美術」を語る

今回は、秋の企画展紹介を、学芸員による座談会形式風にまとめてみました。

司会 それではまず、この企画展の企画理由について述べて下さい。

岡本 歴史民俗資料館も開館して十一年がたちます。昨年度の夏（平成十三年度）は、開館十周年記念特別展「土佐・二〇〇〇年・二一世紀へ伝える文化遺産」展を開催し県下の貴重な文化財を展示公開しました。職員も十年という時の早さを実感しております。収蔵資料をみるとこの十年間に、個人の方などから寄贈、寄託された資料、また郷土文化会館などから移管された資料が収蔵庫に収蔵されています。昨年度から、収蔵庫の耐震設備や収蔵施設の狭隘問題も念頭に置きながら歴史・考古・民俗の資料整理を継続的に実施しています。一方では、収蔵資料の目録化も行われています。

そこで、今回の「歴史と美術」展では、収蔵資料整理中ですが、さらなる目録化を目

指しながら、歴史・考古分野から展示品を選定してもらい公開したいと計画してみました。

また、今回は昨年度の特別展などで調査中に確認され、紹介できなかった新発見資料も含めて展示してみたいという意見もあり、特に中土佐町と窪川町の貴重な文化財も一部展示することにしました。

司会 次に、担当別に説明してもらいます。壁付ケースは半期で入れ替わりますが、前期について説明してください。

泉 前期の展示は、書・画を中心に展示を予定しています。展示資料の一部を紹介してみましよう。

書の展示では、幕末の混沌とした時代に生き、新しい時代に夢を馳せた郷

司会 主任学芸員 野本 亮
各担当学芸員 学芸課長心得 岡本 桂典
学芸専門員 泉 誠司
主任学芸員 曾我 満子

土の偉人の作品を中心に展示します。

まず、幕末の政治家として知られる、十五代藩主山内豊信（容堂）の詩書があります。容堂は歴史の教科書でも取り上げられているように、大政奉還建白書で知られていますが、たくさんの詩書を残しています。

次に、吉田東洋の門下生で山内容堂

司会 絵画資料は展示されますか。

泉 はい。絵画では、土佐勤王党の盟主として幕末土佐の尊皇攘夷運動の中心的な存在、武市瑞山の描いた美人画をはじめ水墨画を展示します。武市瑞山は江戸の桃井道場に学び、鏡新明智流免許皆伝の剣豪としても有名ですが、文化人としての素養も高く、土佐を代表する南画家徳弘董斎の門人として画を学んでいます。

絵巻物として、「梅莊遺事」を展示します。この資料は、長州藩の周布政之助の容堂に対する暴言事件（梅屋敷事件）の顛末を描いた絵巻物です。事



山内容堂詩書



美人画



梅莊遺事

の信任を得、土佐勤王党の獄を断行し幕末の土佐藩を明治維新に導いた、後藤象二郎や福岡考弟の詩書です。

その他、尊皇の志士として、明日の日本を見つめ果敢に生きた、武市瑞山・間崎哲馬（滄浪）・吉村虎太郎や中岡慎太郎の書や武市瑞山の妻富子の和歌なども展示します。

件に関係した土佐・長州両藩士のやり取りを細かな描写で現し、事件の経緯が手に取るようにわかる資料のひとつです。



横幟

また、浦戸湾風俗絵巻は堀詰から桂浜まで浦戸湾沿岸の風景・風俗を柔らかな色彩で描き、自然に満ちあふれた浦戸湾の風景が堪能できます。その他、土佐神社に関わる資料も展示します。芝居絵では、縦一七〇cm、横五九四cmの六曲の屏風に「仮名手本忠臣蔵」の三場面が描かれている屏風を展示します。この芝居絵は、幕末に流行した絵金絵の屏風です。六曲の屏風に描かれた芝居絵は、今にも飛び出してくると云わんばかりの迫力があります。また、絵金の系統を引く芝居絵も展示します。素描画ですが、民衆に広く伝わったことを物語っている資料です。司会 民俗的な資料もあるのでしようか。

泉 資料的価値の高い横幟（よこぼり）を展示します。横幟は男子の初節句に門の両側の壁に健やかな成長を願って吊りまわした。祝賀会等で周囲に吊す紅白の幕の原型といえるものです。幕末には芝居絵を横幟の絵柄に用いることが流行しました。今回、展示する横幟は河田小龍が描いた芝居絵の五場面です。一般的な横幟と比べ、横幅が長く大きなものです。横幟が納められていた木箱には「安政四年（一八五七）出来屋龍之介」の墨書があります。横幟は一卷ですが、その大きさは、出来屋の財力を物語っています。最後に、絵馬を紹介します。資料館に寄託されている春野町芳原観音正寺観音堂の曳馬（ひきま）図の絵馬です。この絵馬は町指定文化財に指定されています。絵馬の大きさは、縦一三〇cm、横一四二cmと大型です。絵馬に残る銘文から慶安元年（一六四八）に大坂の樋口七郎兵衛忠正により描かれたことがわかります。県下に残る絵馬の中では、二番目に古いものです。保存状況も良く、色彩も鮮やかに残る貴重な絵馬のひとつです。もう一点は、縦横一二〇cmを越す大型の絵馬で、半肉彫りのものでその作風にも特徴があり、信仰の厚さと神仏への願いが感じられます。以上、「歴史と美術」の前期展示の

書画類の概要を紹介しました。資料を観ながら人物像や当時の風景に思いを馳せて欲しいと思います。司会 独立ケースでは、どんな資料が展示されますか。



絵馬（曳き馬図）

曾我 前期後期を通じて土佐藩窯の尾戸焼、尾戸焼を継承した能茶山焼の館蔵優品を展示します。小貫入のはしる渋味を帯びた膚合（はだあ）いの尾戸焼茶道具、磁器の白地に呉須（ごす）の藍色（あゐいろ）が美しい能茶山焼を紹介します。また、出土和鏡や神社に奉納された和鏡、近世の化粧道具として用いられた柄鏡も出品します。鏡はものを映し出す鏡面の裏側、つまり鏡背（かがみ）を来館の皆様に見ていただくよう展示します。鏡背の文様、鏡師の銘、時代とともにうつりかわるスタイル、好み、鏡の製



能茶山焼 蓋物（草花文）

作技法について館蔵品の約三〇面を見比べていただきたいと思います。



尾戸焼 茶碗（富士）

川町の石造物、中土佐町の和鏡や県内では初めて確認された青銅製の銅板の俱利迦羅劍、そして、今回は中土佐町の石仏にも光を当ててみました。

海岸部の文化財調査で、貴重な資料が見えるのに、伝世品が少ないんです。須崎へ出かけたときも感じたのですが、どうも宝永の大地震などの津波でかなりの資料が流され、散佚してしまっているようです。

ちなみに宝永四年（一七〇七）の地震による津波は東海から九州に及ぶ巨大な津波で被害も大きかったようです。津波関係の碑や棟札にもその様子の一部が記録されているのは周知のとおりです。この津波で、海岸部では文化財のほとんどが流されたのではないでしょう。石塔なども埋没した物も多くあったと考えられます。企画展内容から少し話がずれてしまいましたが、文化財が語る地震と津波の影響との関係調べてみることも貴重だと思えました。

今後、我々がこれから先に発生する南海地震に対して対応していくのに参考になると思うのですが。

岡本 確かにそうですね。

野本 はい。それでは後期展示の概要を説明します。

後期では、当館の収蔵品のうち、これまで様々な理由により展示できなかった武家資料を特に選定し、「武家の備え」「くろがねの芸術」といった小テーマを設定しました。会場では、甲冑や刀剣類、さらに染織品をまとめて御観覧いただけます。

まず刀剣ですが、当館には、佐川町の堀見家より寄贈された刀剣約一六〇点を中心におよそ二〇〇点のコレクションがあります。今回はその中から平成一〇年に県の指定文化財になった刀（上野守久国）一振と、室町時代と推定される大太刀（興津八幡宮蔵）、さらに特別展示として国重文の「備前長船兼光」（一國兼光）などを展示いたします。いずれも減多に展示できない逸品ですのでこの機会をお見逃しなく。甲冑は二領ほど展示を予定しています。中でも「鉄仏五枚胴具足」（矢野川家資料）は、江戸期の資料ですが、胴のみ「雪下政家作 天正十一年二月吉日」と銘があり織豊期の資料として注目されます。武家の染織品では、陣羽織が最もポピュラーですが、今回は半山郷姫野々住、片岡左忠次所用という打裂羽織（藍色・萌葱・鬱金色）三点を展示します。家紋の揚羽蝶をアップリケした高い技術に注目してください。さらに、江戸期のものだけでは物足りないという方のため、乾家資料の中から

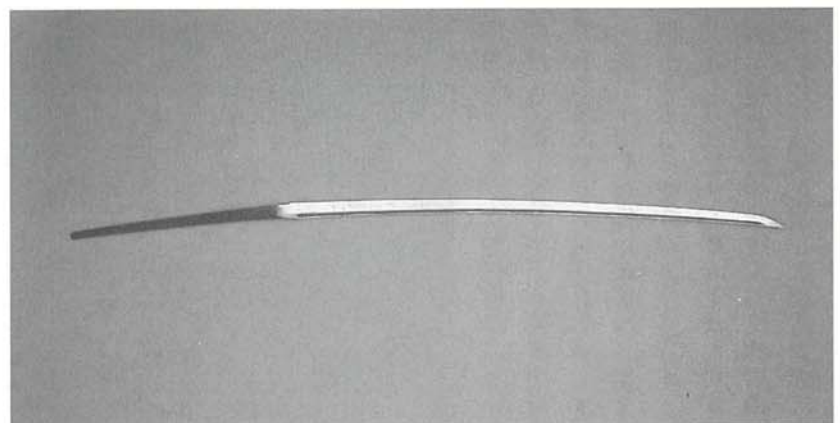
貴重資料を展示します。天正六年（一五七八）三月、羽柴秀吉の部将として、別所長治の居城播州三木城攻めに参加していた山内一豊の元に馳せ参じた乾彦作和信が、その場で一豊より拝領したという紙衣（陣羽織）です。かなり痛んではいますが、戦国の雰囲気を感じられる風格があります。江戸期の資料と対比させてみるのも面白いでしょう。

岡本 壁付ケースを半期で入れ替えることにより、多くのジャンルを展示し



紙衣

※乾家 山内一豊が近江長浜城主時代の家老。土佐入国後馬廻。永源寺には乾一族の墓がある。



大太刀

ようという構想ですね。うまく全体の調和をとらなくてはいけません。

岡本 最後になりましたが、新発見資料について一言…。
野本 それはここでは勘弁してください。実際に会場に足を運んでいただければいいので…。観てのお楽しみということにしておきます。

文化遺産の調査——中土佐町久礼編 1——

岡本 桂典

中土佐町は、高知市から国道五六号線を西に向かうこと約四七kmの土佐湾岸に位置しています。町の東部が土佐湾に面し、三方は西北端にある綱付山（八四一m）から東と南に延びる山に囲まれています。北は須崎市、西は大野見村、西から東にかけて窪川町が位置しています。

平成十四年六月十二日、中土佐町文化財委員・当館資料調査員の林勇作氏のご協力を得て、中土佐町の文化財の一部を調査することができました。調査には、歴史担当の泉誠司・野本亮学芸員と考古担当の岡本が同行しました。昨年度の開館一〇周年記念特別展「土佐・二〇〇〇年・二一世紀に伝える文化遺産」展の時に十分な調査ができなかった資料の調査を再度行うことが目的でした。中土佐町の文化財については、先学の林勇作氏編著の『中土佐町金石史料』（平成元年三月）中に金石史料以外の文化財についても写真入りで詳しく紹介されています。それらを元に調査を実施しました。調査した資料について見てみたいと思います。

倶利迦羅劍
銅板製のもので、高さ六七・七cm、



倶利迦羅劍 久礼八幡宮蔵

最大幅が十七・四cmです。現在は久礼八幡宮所蔵となっています。倶利迦羅はKulikaの梵名で、倶哩迦羅、瞿梨迦羅なども書き、黒色の大竜を意味します。この倶利迦羅龍王の巻き付いている剣を倶利迦羅劍と呼称しています。剣の形状は、下に盤石を敷き、燃えさかる火焰の中に立てられた剣に細長い龍が蛇のように巻き付き、その龍がかつと口を開いて剣を飲み込もうとする姿です。久礼八幡宮のものは、火炎や磐石が失われているようです。

剣の上部に「八幡宮 御奉納」の銘と下部に「佐竹義直花押」と銘が刻されています。佐竹義直の花押は史料ではしられていません。また、倶利迦羅劍単独の資料は県内に類例がありません。十六世紀のものとは推定されますが、どのような目的で奉納されたのかは不明です。一部金箔が残っています。今後、

周辺の文化財調査が進めば、明らかになるかも知れません。

和鏡
菊亀甲丸文双鶴鏡

十五世紀のものと考えられます。径は十一・三cmで同町押岡の白王神社にあったものと伝えられています。久礼には菊花散双鶴鏡という鏡がもう一面あります。十六世紀のものと考えられます。

天文十三年銘の石仏

石仏は、室町時代には形式的となり、意気消沈してしまったと言われています。室町時代の石仏は、小型化しましたが、素朴さと民衆の祈りを感じるものがあります。石仏は当時の人々の祈りの資料でもあります。



長沢天文石仏 中土佐町蔵

土佐では珍しい天文十三年（一五四四）銘地蔵石仏があります。中土佐町長沢より出土したと言われています。全高は三四cm、幅二〇・五cm、像高二cm、厚さ七・八cmです。舟形光背の中央に合掌する地蔵立像を浮き彫りにしています。地蔵菩薩の頭部上には、地蔵菩薩の種子「カ」を刻し、鑿痕の

残る像右に「為妙祐禪尼」、像の左に鑿痕上に「天文十三年五月」と刻されています。石仏では珍しく背面にも「天文十三年甲辰五月九日」とあり

「天文十三年甲辰五月九日」とあります。表裏になぜ銘を刻したのかは不明です。追善供養のために建てられたものでしょう。

四国遍路板碑

中世末の四国遍路について知ることのできる極めて重要な板碑です。自然石に右に「四國中遍路道七度成就也



四国遍路の板碑 中土佐町久礼小学校学間坂

敬白」中央に「ユ（種子）南無大師遍照金剛」「為美作國住圓心逆修也 天正十九年（二五九一）辛卯年」「六月廿一日」とあります。久礼になぜ造立されたのかは不明です。なお当時の遍路が舟を利用していたことも考えられます。これらの資料の一部は、企画展「歴史と美術」で展示公開します。

歴史

新出の元親書状

織豊期の戦乱、江戸幕府の誕生前後に滅亡していった諸大名の資料は、その多くが散逸し、消滅していきました。四国を代表する織豊期大名、長宗我部元親と長宗我部家に関する資料も、前述どおりの状態で、現在数えるほどの資料しか残っていないのが実情です。もともと、最近の調査の結果、県内の他、香川・徳島・愛媛・大阪・埼玉・神奈川県などに元親らの文書（主に書状類）が若干ではありますが残存していることが確認され、少しずつこれまで知られていなかった史実が明らかになってきています。



長宗我部元親書状 加太乗慶宛（個人蔵）

作秋の企画展「長宗我部元親・盛親の栄光と挫折」開催中に和歌山市の個人の方から「うちの家に長宗我部元親からもらった感状がある」との連絡をいただきました。

紀州と土佐の関係を考えれば当然あってもおかしくない地域でありながら、これまで全く把握されていない史料が出てきたことに内心驚嘆しながら史料調査に赴いたことでした。

紀州の雑賀衆と元親が織豊期に一種の同盟関係にあったことは、これまで軍記物などにより漠然とは知られていました。しかし、「雑賀一揆」と称されたこの雑賀衆のどの地域の勢力と関係があったのかは全く不明でした。

今回発見された史料は、紀州加太浦（十ヶ郷）の有力者加太乗慶に対して発給されたもので、典型的な元親書状（原本）と言えます。上方との外交・水運の中継地として、阿波や紀州の浦々は重要な戦略拠点でした。書状の中で元親は、「土佐国中廻船」の特権を認め、「番船奉行」を依頼するなど、雑賀衆加太氏の力をあてにする一方で、土佐の水主の利権を守るため、「私沙汰有間敷候」と警告を発している点が注目されます。元親と南海路上に点する諸勢力に関する研究はまだまだこれからです。貴重史料が他にも埋もれているかもしれません。（野本）

民俗

いざなぎ流調査ブーム

まだまだ終息しそうな陰陽道ブームの中で、物部村のいざなぎ流が注目を集め続けています。十月からはニューヨークの美術館で、いざなぎ流の御幣が展示されることになり、世界にいざなぎ流が紹介されることになりました。

一方、研究者の来訪も続いています。高知新聞でも報ぜられましたが、作家の荒俣宏さんが、陰陽師のおもかげを訪ねて五月のはじめ物部村を訪れました。

国立歴史民俗博物館では、いざなぎ流を映像記録に残すことになり、七月に民俗研究部の常光徹さんと松尾恒一さんが業者を伴って下見に回りました。当館では五年前の平成九年に企画展でいざなぎ流を取り上げたこともあり、情報提供など協力できるところでは微力ながらお手伝いをしたりしています。研究者の人が、高知県に伝わる民俗の価値を発見し、全国で紹介することによって、日本中の人々にいざなぎ流の貴重さを知っていただくことができ、また県民の方々も高知県に伝わってきた民俗文化を再発見することができると思うからです。いざなぎ流が注目を集める背景には

陰陽道ブームがあるわけですが、それをきっかけにして、貴重な文化遺産を見直すことになれば、それは悪いことではないでしょう。

しかし、いざなぎ流と陰陽道って本当はどれくらい関係があるのか、ということは実はよくわかっていません。

次年度開催予定の「異界万華鏡」（仮称）展では、そのあたりにスポットを当てて考えてみよう、先日、京都の陰陽道資料を閲覧してきました。似ている部分以上に違う所が多い、というのが実感です。さらに調査を進めようと考えています。（梅野）

当館の図録「いざなぎ流の宇宙」も一五〇〇円で館受付で販売していますので、よろしければお買い求め下さい。



いざなぎ流太夫・小松為繁さんにインタビューする荒俣宏さん（02.5.7）

茶筒

坂本 正夫

写真の民具は梶原町立歴史民俗資料館蔵のチャツツ（茶筒）―飲料水運搬具―だが、チクヨウ（竹よう）とかタケツツ（竹筒）とも呼ばれていました。

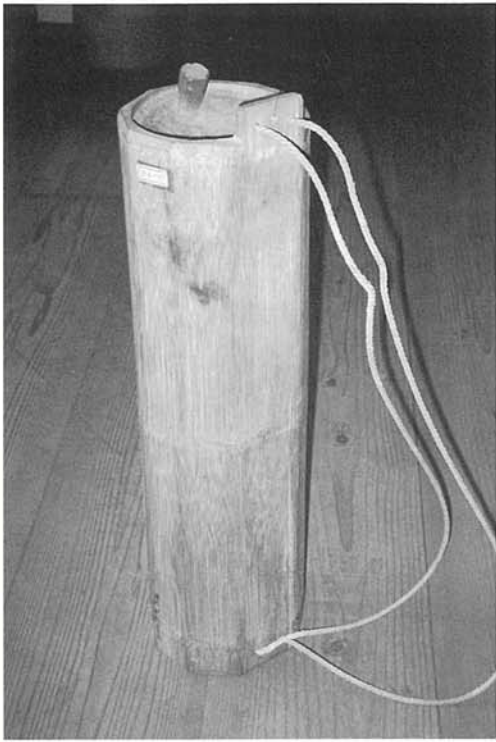
山仕事に行く者がこれに飲料水を入れて背負って行くが、「やかん」や「茶びん」は別を持って行き仕事場で茶を沸かしていました。

太い孟相竹の三節を用いて作っており、一番上の節に水出し用の穴を開け、木の栓を差し込んで蓋にしています。茶筒の横の部分の上部と底に穴を開け、麻の縄を通して背負えるようになって

いるが、仕事場では木陰の木の枝に吊っていました。

孟相竹の皮の部分はすべて剥ぎとっているが、皮をそのまま残しておくとう内部から水を吸い込んでふくれあがり、やがて割れるから必ず剥ぎとっておかなければいけない、といわれています。

土佐の山村では、飲料水の運搬具として竹筒が広く使用されていたが、特に県西部の山村で遅くまで使用されていました。そのため梶原町や大正町の歴史館には、いろいろな竹筒が所蔵されています。



なお山仕事に出る農民が使う飲料水運搬具にはミズタル（水樽）、チャダル（茶樽）、チャオケ（茶桶）、ユオケ（湯桶）などと呼ばれる桶や樽もありました。

カルサポ（カルチャーサポート）日記

ホームページを作っています

福原 僚子

当館のカルチャーサポートになって早二年目の夏を迎えました。

これまで主に民家で行われるワクワクワークなどの行事のお手伝いを続けてきました。今年の六月頃からカルサポのホームページ作成に向けて他のメンバーと話し合いを重ねてきました。

まずは行事の写真やアンケートなどの記録をもとにページ作りを始めましたが、当時の現場が本当に楽しかっただけに、その雰囲気はどうすれば視覚で伝えられるか、入力作業に入っても試行錯誤が続いています。ワラの感触、紙芝居の拍子木の音、民家の囲炉裏の炭で焼いたサツマイモの味などの体験は参加者の心の中にそれぞれの形でしまわれているでしょう。私にも忘れられない光景があります。自分で作った草履を恐る恐る履いた子が「気持ちいい！」と思わず声をあげた、その顔の輝いていたこと…。そんな体験のすべてを伝えることが果たしてできるでしょうか。

いろいろとホームページの形を話し合うなかで、誰からともなくカルサポとは何か、ということが話題になりました。



6月22日、搬入口にて

した。私たち一人ひとりの背景はもちろん参加動機も様々、活動に対する意識にも温度差があります。まだ歴史を中心が集まったゆるやかな、漠然とした集団にも思えます。そんなカルサポ同士の語り合いのなか、あるメンバーから「来館者と職員との架け橋」という言葉が生まれました。来館者は地域の方々、職員は博物館に置きかえても良いでしょう。もしかしたらこの言葉が私たちの思いを一つにしてくれるのかもしれない。

今後も伝えたいたくさん思いを少しずつ形にしながら、より多くの方に来館していただくきっかけとなるような魅力的なページにしたいと願っています。

図録増刷のご案内



平成9年度企画展

いざなぎ流の宇宙

—神と人のものがたり—

売り切れていた図録の増刷(第4刷)300冊分の販売を開始します。

頒価1500円(送料340円)

月・日	今後の予定
10/4	企画展「歴史と美術」開幕
10/5	史跡めぐり 展示室トーク①
10/19	講演会 広谷喜十郎氏
10/26	障子貼りに挑戦しよう
11/3	展示室トーク②
11/9	展示室トーク③
12/1	企画展「歴史と美術」閉幕
12/22	燻蒸臨時休館
12/27	
12/28	年末年始休館
1/4	

岡豊風日(おこうふうじつ) 第45号
平成十四年九月一日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南州市岡豊町八幡1-0-99-1
TEL 088-862-2211
FAX 088-862-2110

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(祝日及び振替休日にあたる場合は翌日) 12月28日～1月4日、臨時休館日あり

入館料 通常期(常設展)大人(18歳以上) 450円・団体(20人以上) 300円

無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)

印刷・(株)飛鳥

<http://www2.net-kochi.gr.jp/~kenbunka/rekimin/>
E-mail:rekimin@tosa.net-kochi.gr.jp

平成14年10月～12月の催し物

[次回企画展]

歴史と美術

10月4日(金)～12月1日(日)



山内容堂詠歌(扇面)

歴史民俗資料館の収蔵資料の中から、工芸品・書画資料を中心に展示します。また、昨年度の開館10周年記念特別展で紹介できなかった未公開・新発見の考古・美術工芸資料も一部展示します。

[講演会]

※はがきかEメールでお申し込み下さい

「土佐の産業史からみた 庶民的工芸のルーツをたずねて」

講師：土佐史研究家 広谷喜十郎氏

10月19日(土) 14:00～16:00 AVホール

[展示室トーク]

10月5日(土)/11月3日(祝・日)/11月9日(土)

14:00～15:00 企画展示室他

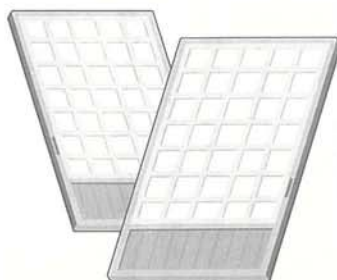
企画展「歴史と美術」の展示資料について、担当学芸員が解説します。

[ワクワクワーク]

※電話かEメールでお申し込み下さい

障子貼りに挑戦しよう

10月26日(土) 10:00～12:00



登録文化財の山村民家の障子の貼り替えをしてみませんか。ちょっと昔の生活体験です。講師は当館のカルチャーサポーターの皆さんです。